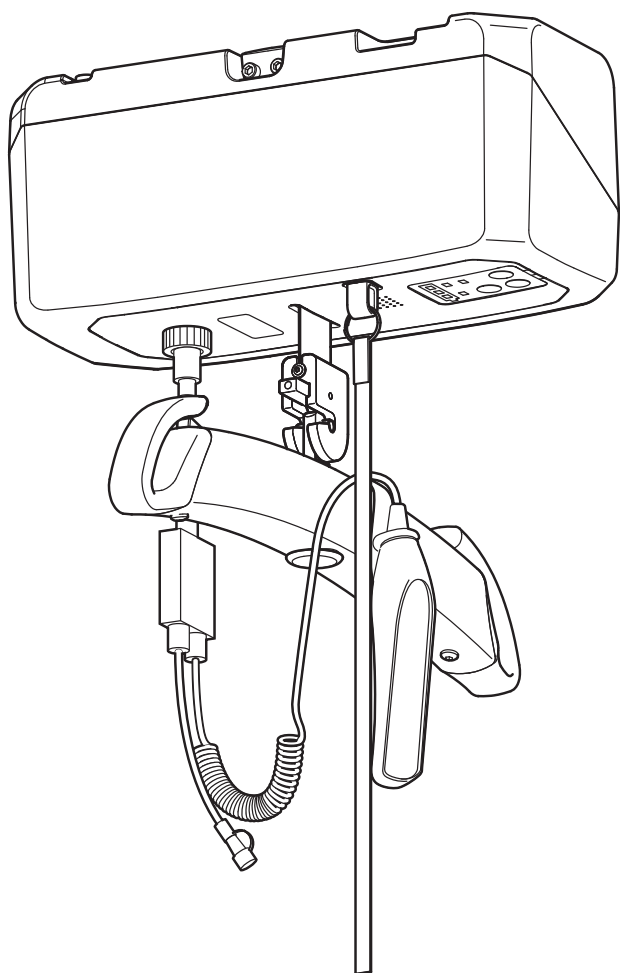




シーリングリフト / 天井走行型

SOELCX

ソエル シーエックス

CX-AA-101

取扱説明書

まえがき

このたびは、介護リフトをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この「取扱説明書」には、安全にお使いいただくための注意事項と使用方法などを記載しています。

- 介護リフトをお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- 療養する方ばかりでなく、介護する方もこの「取扱説明書」をよくお読みください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接弊社までお問い合わせください。
- この介護リフトは日本国内専用です。海外では電源・電圧が異なるため使用できません。
- 動作範囲・寸法・角度・質量などの数値の記載がある場合、その数値には多少の誤差が含まれます。特別なものを除きこの「取扱説明書」では、表示を見やすくするため、約・およそといった言葉を省略しております。

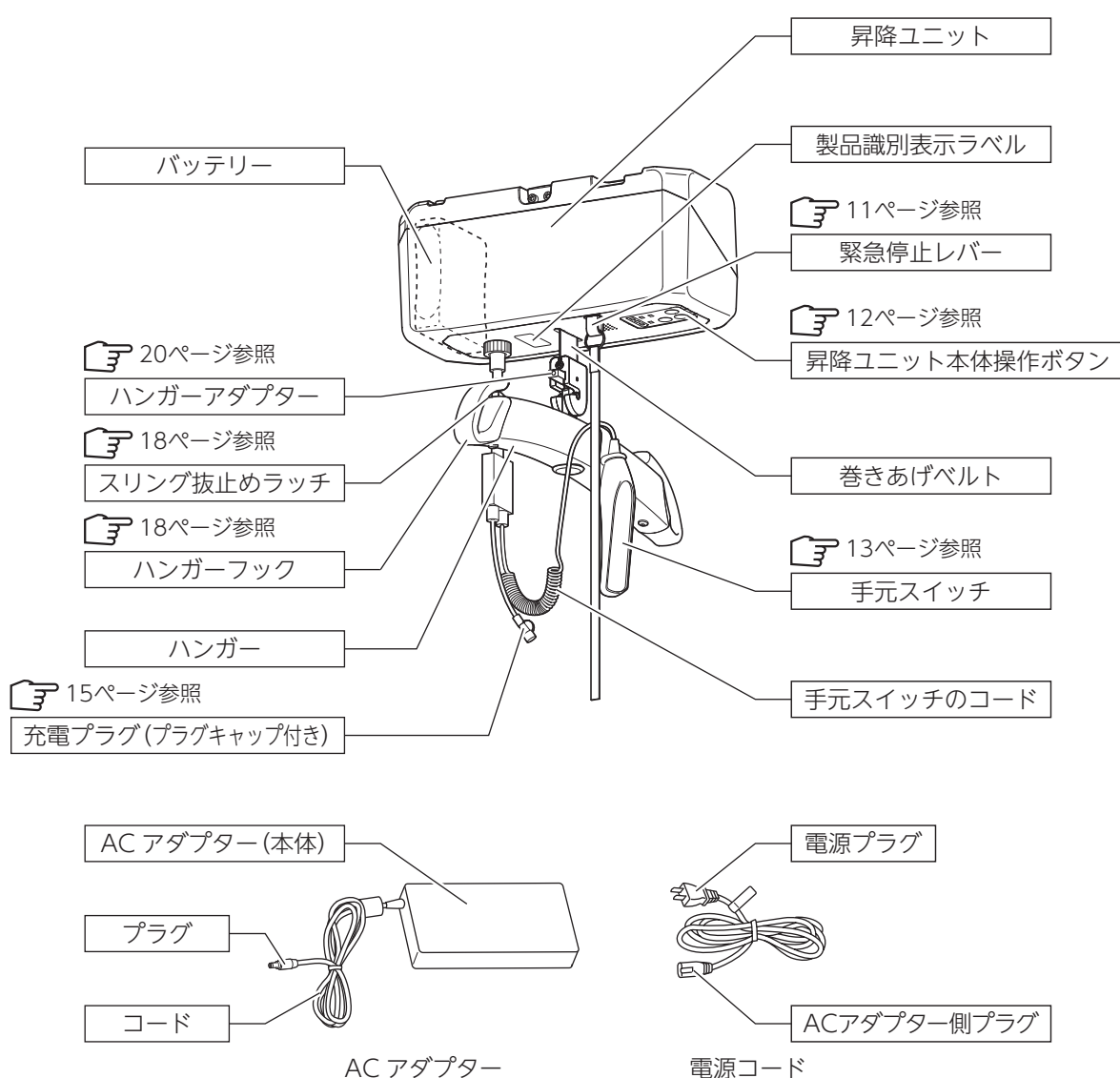
もくじ

1	使用目的	2
2	各部の名称	2
3	安全に使用するための注意事項	3
4	使用方法	11
1.	昇降ユニット操作部の各部の名称	11
2.	手元スイッチの各部の名称	13
3.	スイッチを安全に使用するための注意事項	14
4.	手元スイッチのフックの使いかた	14
5.	充電のしかた	15
6.	昇降ユニットを動かしてみましょう	16
7.	使用しないとき	17
8.	スリングシートについて	18
5	使用場所についての注意事項	19
6	組立方法	20
1.	ハンガー・手元スイッチの取付け	20
2.	緊急停止レバーの準備	22
7	ご使用前の日常点検	23
8	定期点検と日常のお手入れ	26
1.	定期点検	26
2.	日常のお手入れ	26
9	故障かな？と思ったら	27
10	長期保管について	29
11	取外し方法	29
1.	取外し作業の前に	29
2.	ハンガー・手元スイッチの取外し	30
12	仕様	31
13	アフターサービス	32
	保証書	裏表紙

1 使用目的

介護リフトは、ベッドから車いすへの移動など、さまざまな移乗動作を補助し、介護する方の介護負担を軽くすることを目的に作られています。

2 各部の名称



3 安全に使用するための注意事項

■必ずご使用の前にこの「安全に使用するための注意事項」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

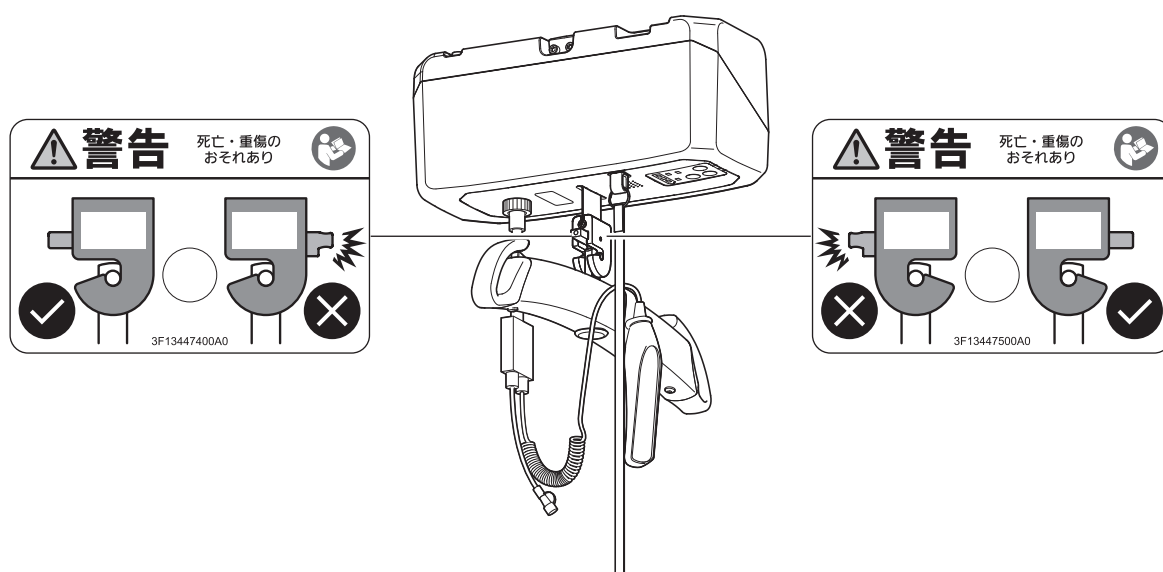
- ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度に応じて「⚠ 警告」と「⚠ 注意」の二つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 警告 けい こく	この表示を無視して誤った取扱いをすると、死亡または重傷（骨折・圧迫・ ^{まひ} 麻痺など）を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意 ちゅう い	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が軽傷（打撲・すり傷・切り傷など）を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

※取扱説明書をお読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

【安全ラベルについて】

- 注意事項の中で、介護リフトをお使いになる方に特に注意していただきたい項目をラベルにして、ハンガーアダプターに貼ってあります。はがしたり傷つけたりしないでください。
- ラベルが傷ついたり、はがれたりした場合には販売店から新しいラベルを取り寄せ、正しい位置に貼り直してください。





■弊社の介護リフトと組み合わせるスリングシートはストラップ（ループ）が布製の製品をご使用ください

- ストラップ（ループ）が金属やプラスチックの製品を使用すると、けがをしたり介護リフトの故障につながるおそれがあります。
- スリングシートは弊社がお勧めするスリングシートをご使用ください。詳しくは販売店にご相談ください。

■操作が理解できないと思われる方（12歳以下のお子様や認知症の方など）に操作させないでください

- 操作が理解できないと思われる方が、1人で手元スイッチなどを操作した場合、誤って身体がはさまれるなど、思わぬけがをするおそれがあります。1人で手元スイッチなどに触れる可能性がある場合には、昇降ユニットの緊急停止レバーを引き昇降ユニットを停止状態にし、誤操作による事故を未然に防いでください。

■2人以上吊りあげないでください

- この介護リフトは1人用の設計になっています。2人以上を吊りあげると、介護リフトが破損してけがをするおそれがあります。

■最大利用者体重を超える方を吊りあげないでください

- 介護リフトの最大利用者体重は200kgです。200kgを超える方に使用すると、落下によるけがや、介護リフトが破損・変形する原因となります。
- 使用するスリングシートにも最大利用者体重が定められています。スリングシートの最大利用者体重を超える方を吊りあげないでください。スリングシートが破損・変形して、けがをするおそれがあります。

■介護を受ける方の症状にあわせて、使用してください

- 介護を受ける方の症状によっては、介護リフトの操作で症状を悪化させる可能性があります。介護リフトのご使用に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。
- 関節などに痛みが生じやすい方、床ずれのしやすい方などを吊りあげるときは、慎重に操作してください。

■介護リフト操作時は、介護リフトの周囲に注意してください

- 昇降ユニットやハンガーが人に当たってけがをしたり、周囲の物に当たり破損したりするおそれがあります。
- 特に、予測できない行動をとるとと思われる方や体位を自分で保持できない方には十分注意してください。

■昇降ユニットをレール上で移動させる際は、ゆっくりと動かしてください

- 速く動かすと、ハンガーや手元スイッチが周囲の人や物にぶつかり、けがをしたり破損するおそれがあります。

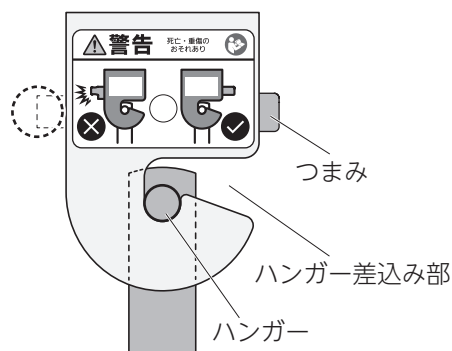
■レールを移動させる際は、手元スイッチを引っ張っての移動はしないでください

- 止めようと思った場所で止めることができず、介護を受ける方に不安や苦痛を与えるばかりでなく、壁や周囲の物にぶつかったり、落下してけがをする恐れがあります。
- 移動中に誤ってボタンが押され、意図せぬ昇降ユニットの動きにより、けがをするおそれがあります。
- 手元スイッチのケーブルに過度な力がかかり、断線や破損するなどして使用できなくなるおそれがあります。

3 安全に使用するための注意事項



■ハンガーがハンガーアダプターの奥まで差込まれ、つまみがハンガー差込み部の反対側から飛び出していないことを確認してください



- ハンガーがハンガーアダプターから外れ、介護を受ける方が落下してけがをするおそれがあります。

■ハンガーが介護を受ける方の顔などに当たらないように注意してください

- けがをするおそれがあります。
- 特に、スリングシートを着脱するときは、ハンガーを手で支えてください。ハンガーを手で支えないと、ハンガーが揺れたり回転し、ぶつかってけがをするおそれがあります。

■お子様に触らせたり、介護リフトの周りで遊ばせたりしないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。

■ハンガーなどにぶらさがったり、ものを掛けたりしないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。

■介護を受ける方を吊りあげて移乗させる際は、介護を受ける方から目を離さないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。

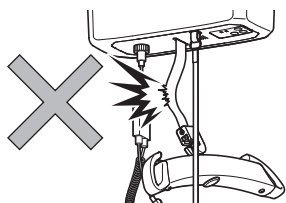
■介護を受ける方を吊りあげて移乗させる際は、ゆっくりと動かしてください

- 速く動かすと、介護を受ける方に苦痛や不安を与えるばかりではなく、壁や周囲のものにぶつかったり、落下したりしてけがをするおそれがあります。また、介護リフトが破損・変形したりするおそれがあります。

■介護リフト周辺を移動するときは、頭上に注意してください

- 昇降ユニットやハンガーに頭などをぶつけて、けがをするおそれがあります。

■昇降ユニットの巻き上げベルトにほつれが見つかった場合は、使用を中止してください



- 巻き上げベルトが切れ、介護を受ける方が落下して、けがをするおそれがあります。
- 巻き上げベルトにほつれが見つかった場合は、SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) までお問い合わせください。



■ハンガーフックや突起物に衣類などが絡まないように注意してください

- 衣類などが絡まった状態で介護リフトを操作すると、衣類などが引っ張られるなどして、けがをするおそれがあります。

■ハンガーフックに指を入れないよう注意してください。

- スリング抜け止めラッチなどに指が挟まって引っ張られるなどして、けがをするおそれがあります。

■「ベルトを交換してください」の音声アナウンスが発声した場合は、SOEL 専用ダイヤルまで巻きあげベルト交換の依頼をしてください

- 数回は使用できますが、使い続けると、上昇ができなくなります(下降のみ操作が可能です)。音声アナウンスは、ボタンを押すたびに発声し、巻きあげベルト交換が完了するまで消えません。
- 巻きあげベルトは消耗品です。安全にお使いいただくために、必ず早めの交換をお願いします。

■ハンガーや手元スイッチをベッドや車椅子などの上に置かないでください

- 巻きあげベルトや手元スイッチのコードなどが介護を受ける方の首や身体などに絡まり、けがをするおそれがあります。
- ハンガーアダプターなどの可動部に手指や足指などがはさまれて、思わぬけがをするおそれがあります。
- ハンガーや手元スイッチがベッドや車椅子などの上から落下して破損するおそれがあります。

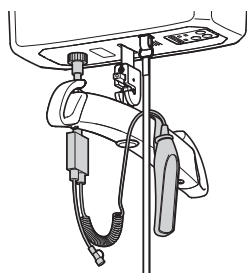
■手元スイッチなどの取扱いに注意してください

- 昇降ユニットが誤動作してけがをしたり、ショートなどにより感電・火災のおそれがあります。また、故障の原因となります。
 - ぶつけたり傷つけたりしないでください。
 - 落としたり、コードを無理に引っ張ったりしないでください。
- 傷んだ手元スイッチなどは修理(交換)を依頼してください。
- ハンガーを回転させた際に、手元スイッチのコードが巻きつくことがあります。その状態で動作させると、コードが引っ張られて断線し、ショートなどにより感電・火災のおそれがあります。介護リフトを操作をする前に、コードが巻きついていないか確認をしてください。

■介護を受ける方が手元スイッチや昇降ユニット本体操作ボタンを操作しないでください

- 手元スイッチを落とすと、宙づりのままとなるおそれがあります。
- 思わぬけがをするおそれがあります。

■手元スイッチを使用しないときは、ハンガーなどに引っ掛け、ベッドや車椅子などの上やゆかに置かないでください



- 誤ってボタンが押され、意図せぬ昇降ユニットの動きにより、けがをするおそれがあります。

3 安全に使用するための注意事項



■電源プラグにほこりを付着させないでください



- 電源プラグの表面にほこりが付着していると水分を含んで電流が流れ、ショートなどにより、感電・火災のおそれがあります。
- 電源プラグの表面にほこりが付着している場合、乾いた布などでよく拭き取ってください。

■電源プラグに無理な力を加えないでください

- 電源プラグが破損し、感電・火災のおそれがあります。

■電源プラグや充電用プラグを濡れた手で抜き差ししないでください

- ショートして感電したり、故障したりするおそれがあります。

■電源プラグや充電用プラグを抜く際は、プラグ部を持って抜いてください

- コードのみを持って引き抜くとコードが傷んで、感電・火災のおそれがあります。

■コード類(電源コードなど)を傷つけないでください

- コード類が破損し、感電・火災のおそれがあります。
 - ベッドの可動部や車椅子などでコード類をはさまないようにしてください。
 - コード類に重いものを置いたり無理な力を加えたりしないようにしてください。
- 傷んだコード類は修理(交換)を依頼してください。

■電源コードや手元スイッチのコードなどに足を引っ掛けないようにしてください

- プラグやコードが破損し、感電・火災のおそれがあります。
- 転倒して、けがをするおそれがあります。

■介護リフトのケーブルが周辺機器などの間に入らないように注意してください

- 周辺機器のすき間にはさまれて、介護リフトのケーブルが破損し、感電・火災のおそれがあります。

■介護リフトの充電用プラグを接続したまま介護リフトを移動させないでください

- 各ケーブルに無理な力が加わり破損して、感電・火災のおそれがあります。

■お手入れは介護リフトの緊急停止レバーを引き、電源を切った状態にしてから行ってください

- 誤操作により昇降ユニットが動いて、けがをするおそれがあります。

■介護リフトに意図的に水などをかけないでください

- 昇降ユニットや手元スイッチなどの電装品に意図的に水をかけたり、水没させないでください。ショートして感電したり、故障したりする原因となります。水などで濡らしてしまった場合には、昇降ユニットの緊急停止レバーを引き、昇降ユニットを停止状態にして、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)までお問い合わせください。

■昇降ユニットから異常な音がする際は、介護リフトを使用しないでください

- 昇降ユニットが破損し、感電・火災のおそれがあります。
- 転落してけがをするおそれがあります。
- 昇降ユニットから異常な音がする際は、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ)まで、点検・修理をご依頼ください。



■スリングシートは正しく装着してください

- 介護を受ける方を吊りあげたときに介護を受ける方がスリングシートから抜け落ちたり、皮膚がこすれたりしてけがをするおそれがあります。
- ご使用前にスリングシートの取扱説明書をよくお読みください。

■スリングシートは、介護を受ける方の身体の状態に適したものをご使用ください。 スリングシートの選択に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください

- 介護を受ける方の状態にあったスリングシートを使用しないと、思わぬけがをしたり、皮膚に異常が起こったりするおそれがあります。

■スリングシートのストラップ(ループ)は、ハンガーフックに確実にかけてください

- ストラップ(ループ)が外れた状態で昇降ユニットをあげると、介護を受ける方に苦痛を与えるばかりでなく、介護を受ける方がスリングシートから落下して、けがをするおそれがあります。

■介護リフトを使用しないときは、ハンガーを一番上まであげてください

- ハンガーが人に当たったり、衣類などに引っ掛かったりして、けがをするおそれがあります。
- ハンガーをさげたままにすると、ハンガーに顔をぶついたり身体の一部(特に首など)に巻きあげベルトや手元スイッチのコードなどが巻きついたりして、けがをするおそれがあります。
- 誤って操作ボタンが押され、意図せぬハンガーの動きにより、けがをするおそれがあります。
- ハンガーが身体の一部と接触するなど、思わぬけがをするおそれがあります。

■火気に近づけないでください

- 介護リフトの近くで、ストーブなどの熱器具を使用しないでください。変質・変形・火災などの原因となります。

■お客様による修理・改造・廃棄はしないでください

- 思わぬけがや破損の原因になります。
- お客様による修理・改造は保証対象外となります。

■電子治療機器を使用するときは昇降ユニットの緊急停止レバーを引き、昇降ユニットを停止状態にしてください

- 電子治療機器(マイクロ波治療器、超短波治療器など)を同時に使用した場合、介護リフトの故障や誤動作の原因となります。
- 他のME機器と併用する際は、安全をご確認の上ご使用ください。

■介護リフトは定期的に点検してください

- 使用の頻度や環境により、製品は摩耗・劣化します。定期的に各部のゆるみ、巻きあげベルトのほつれ、可動部の動作、破損や異音の有無などを点検してください。思わぬけがをするおそれがあります。

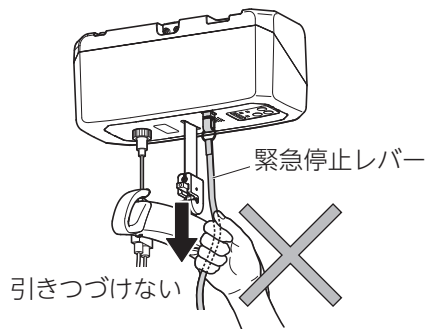
■被災した介護リフトは点検・修理を依頼してください

- 地震・火災・水害などで被災した介護リフトは、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)まで、点検・修理をご依頼ください。電装品のショートや漏電による感電・火災、介護リフトの変形による動作の異常によって、けがをするおそれがあります。

3 安全に使用するための注意事項



- 「緊急さげ機能」を使用する際以外は、緊急停止レバーを引きつづけないでください。
「緊急さげ機能」を使用した後は、緊急停止レバーを押し、使用状態にしてください
(11 ページ参照)



- 緊急停止レバーが意図せず引かれ続けると、「緊急さげ機能」が機能し自重で巻き上げベルトが下降し、けが・故障のおそれがあります。
- 緊急停止レバーを意図せず引き続けると、「緊急さげ機能」が機能し続けて昇降ユニットが高温になり、けが・火災・故障のおそれがあります。
- 緊急停止レバーをあやまって操作した場合、意図せずハンガーが下がり、介護を受ける方の頭などに当たりけがをするおそれがあります。

- 漂白剤を使用した室内に、介護リフトやスリングシートを放置しないでください

- 漂白剤に含まれる成分の揮発によって、巻き上げベルトやスリングシートが損傷し、落下してけがをするおそれがあります。



■温度が低いときには介護リフトを使用しないでください(10℃未満)

- 昇降ユニットの使用可能温度は10～40℃です。10℃未満の場所で使用する場合、昇降ユニットが動かず破損するおそれがあります。また、緊急さげ機能も使用できないおそれがあります。温度が上がってからご使用ください。

■最大連続使用時間を超えて昇降ユニットのあげ・さげを行わないでください

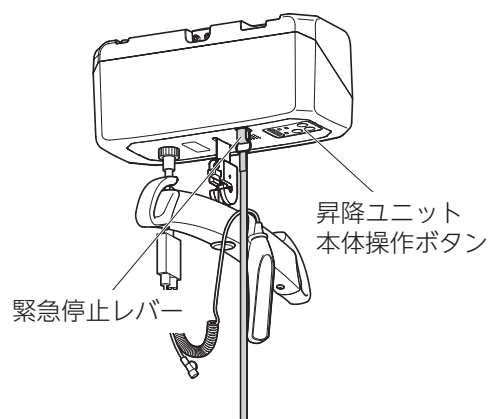
- 昇降ユニットの最大連続使用時間は2分です。最大連続使用時間を超えて使用すると、昇降ユニットが故障するおそれがあります。

■スプレータイプの殺虫剤を介護リフトに直接噴射しないでください

- 殺虫剤に含まれる溶剤によって、介護リフトの樹脂部分が破損・変色・溶解するおそれがあります。また、破損・溶解した部分で思わぬけがをするおそれがあります。

4 使用方法

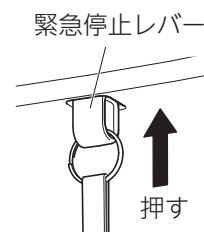
1. 昇降ユニット操作部の各部の名称



緊急停止レバー

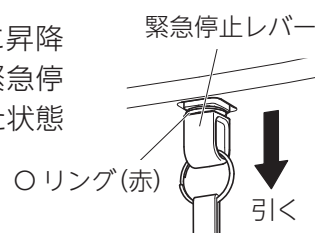
使用状態

昇降ユニットの緊急停止レバーを押し、Oリング(赤)が見えない状態にしてください。



緊急停止

非常時や意図せぬ動きをした場合などに昇降ユニットの昇降動作を停止するときは、緊急停止レバーを引いてください。電源が切れた状態になります。



緊急さげ機能

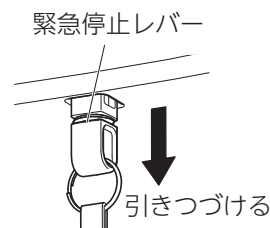
緊急停止状態の緊急停止レバーを引き続けると、「緊急さげ機能」状態になりハンガーが下がります。引いた状態から手を離すと、緊急停止レバーは緊急停止状態に戻りハンガーが止まります。緊急さげ機能は、次のような場合で、緊急にハンガーをさげる必要があるときに使用することを想定しています。

- ・ 昇降ユニットの本体操作ボタンおよび手元スイッチの故障により操作ができなくなり、介護を受ける方を降ろさなければならいとき。



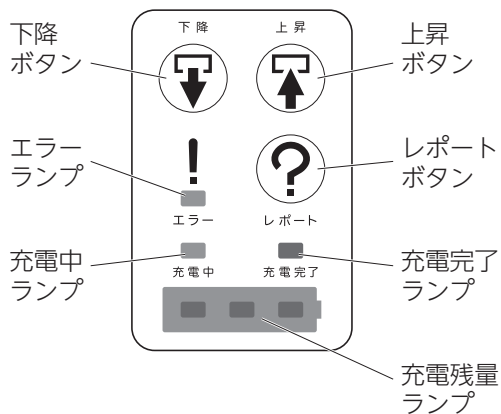
- 緊急さげ機能はハンガーにある程度重量がかかっていないと下がりません。また、室内の温度が低い場合(10℃未満)、下がらないことがあります。

- 緊急時以外は使用しないでください。



- 「緊急さげ機能」を使用する際以外は、緊急停止レバーを引き続けしないでください。「緊急さげ機能」を使用した後、通常操作を行う場合、緊急停止レバーを押し、使用状態にしてください。
- 緊急停止レバーが意図せず引かれ続けると、「緊急さげ機能」が機能し自重で巻きあげベルトが下降し、けが・故障のおそれがあります。
- 緊急停止レバーを意図せず引き続けると、緊急さげ機能が機能し続けて昇降ユニットが高温になり、けが・火災・故障のおそれがあります。
- 緊急停止レバーをあやまって操作した場合、意図せずハンガーが下がり、介護を受ける方の頭などに当たりけがをするおそれがあります。

昇降ユニット本体 操作ボタン



下降ボタン

ハンガーの高さを調節するときに押してください。
ボタンを押すと動き、離すとその位置で止まります。



- 緊急停止レバーが引かれた状態だと動作しません。昇降ユニットの緊急停止レバーを押し、使用状態にしてください。(11 ページ参照)
- 昇降ユニット本体の上昇ボタンまたは下降ボタンを押すと、昇降ユニットの電源が入り動作するようになります。
- 手元スイッチや昇降ユニット本体操作ボタンを 4 分間操作しない状態が続くと、自動的に昇降ユニットの電源が切れ動作しません。昇降ユニット本体操作ボタンの上昇ボタンまたは下降ボタンを押すと、昇降ユニットの電源が入り、再び動作するようになります。
- 昇降ユニットが動作しないときは、27・28 ページの「**9**故障かな?と思ったら」を参照してください。

レポートボタン

昇降ユニットにエラー・故障が発生している場合は、そのエラーや故障内容を音声アナウンスにて発声します。
昇降ユニットにエラー・故障がない場合は、「現在、異常はありません」と発声します。
ただし、充電残量ランプが消灯している状態ではアナウンスされません。

エラーランプ

昇降ユニットにエラーがある場合、点灯します。

充電中ランプ

昇降ユニットのバッテリーの充電中に点灯します。

充電完了ランプ

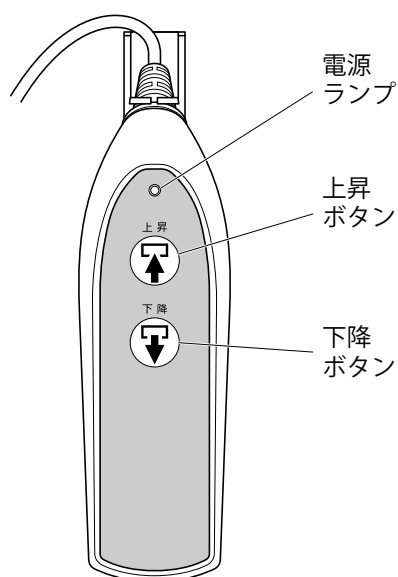
昇降ユニットのバッテリーの充電が完了した場合、点灯します。

充電残量ランプ

手元スイッチや昇降ユニット本体の上昇ボタンまたは下降ボタンを押し、電源が入ると点灯します。
昇降ユニットのバッテリー残量が低下すると点灯数が変わります。

4 使用方法

2. 手元スイッチの各部の名称



上昇ボタン

下降ボタン

ハンガーの高さを調節するときに押してください。
ボタンを押すと動き、離すとその位置で止まります。



- 緊急停止レバーが引かれた状態だと動作しません。昇降ユニットの緊急停止レバーを押し、使用状態にしてください。(11 ページ参照)
- 手元スイッチの上昇ボタン(下降ボタン)を押すと、昇降ユニットの電源が入り動作するようになります。
- 手元スイッチや昇降ユニット本体操作ボタンを 4 分間操作しない状態が続くと、自動的に昇降ユニットの電源が切れ動作しません。手元スイッチの上昇ボタン(下降ボタン)を押すと、昇降ユニットの電源が入り、再び動作するようになります。
- 昇降ユニットが動作しないときは、27・28 ページの「**9**故障かな?と思ったら」を参照してください。

電源ランプ

手元スイッチや昇降ユニット本体の上昇ボタン(下降ボタン)を押し、電源が入ると点灯します。

3. スイッチを安全に使用するための注意事項

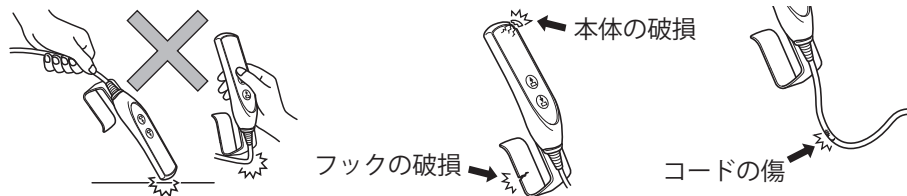


●操作が理解できないと思われる方(12歳以下のお子様や認知症の方など)に操作させないでください。操作が理解できないと思われる方が、1人で手元スイッチなどを操作した場合、誤って身体がはさまれるなど、思わぬけがをするおそれがあります。1人で手元スイッチなどに触れる可能性がある場合には、昇降ユニットの緊急停止レバーを引き昇降ユニットを停止状態にし、誤操作による事故を未然に防いでください。

●手元スイッチなどの取扱いに注意してください。昇降ユニットが誤動作してけがをしたり、ショートなどにより、感電・火災のおそれがあります。また、故障の原因となります。

○ぶつかけたり、傷つけたりしないでください。

○落としたり、コードを無理に引っ張ったりしないでください。



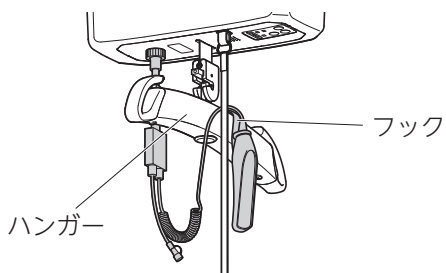
●傷んだ手元スイッチなどは修理(交換)を依頼してください。

●ハンガーを回転させた際に、手元スイッチのコードが巻きつくことがあります。その状態で動作させると、コードが引っ張られて断線し、ショートなどにより感電・火災のおそれがあります。介護リフトを操作をする前に、コードが巻きついていないか確認をしてください。



●手元スイッチは、介護リフト専用のものを取付けてご使用ください。正しく機能しないおそれがあります。

4. 手元スイッチのフックの使いかた



手元スイッチにはフックがついています。使用しないときは、ボタンに触れないようにフックを利用して、ハンガーなどに掛けてください。

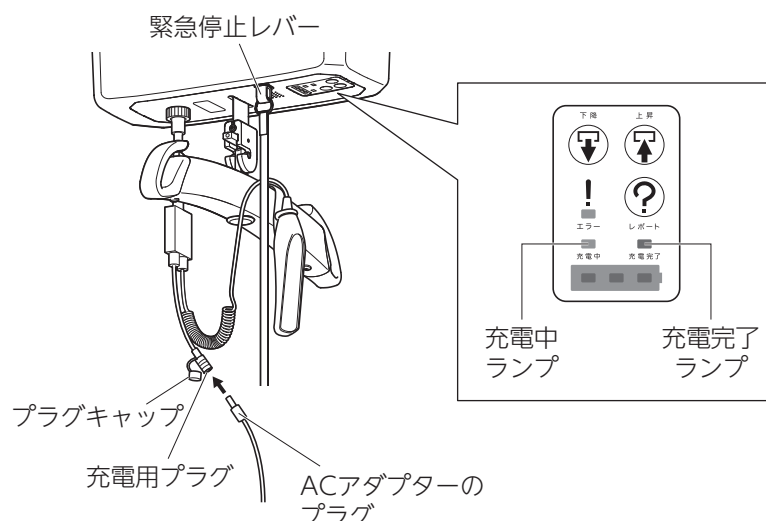


●手元スイッチを使用しないときは、ハンガーなどに引っ掛け、ベッドや車椅子の上、ゆかなどに置かないでください。誤ってボタンが押され、意図せぬ昇降ユニットの動きにより、けがをするおそれがあります。

4 使用方法

5. 充電のしかた

- ① AC アダプターの電源コードをコンセントに接続してください。
- ② 昇降ユニットの緊急レバーが押し込まれた状態にしてください。
- ③ プラグキャップを外し、AC アダプターのプラグをしっかりと差し込んでください。
- ④ 充電中ランプが点灯するとともに、「充電を開始しました。充電中は動作できません」のアナウンスが流れます。
- ⑤ 充電完了ランプが点灯していれば、充電終了です。



●充電中は、昇降操作はできません。

充電中に上昇ボタンまたは下降ボタンを押した場合、「充電中は操作できません。充電ケーブルを外してください」のアナウンスが流れます。

昇降操作をしたい場合は、一旦、AC アダプターのプラグを外してください。

●充電開始後、4 分経つと全ての LED が自動消灯します。

充電状態を確認したい場合は、上昇ボタンか下降ボタンを 1 回だけ押してください。LED が点灯します。その後、ボタン操作がない場合は、4 分後に自動消灯します。

●残量について

残量目盛 LED が緑 1 つ点灯状態になると、操作ボタンを押すたびに「充電が少なくなっています。お早めに充電してください」のアナウンスが流れます。

数回は操作可能ですが、赤ランプ点滅になると上昇ができなくなります(下降のみ操作は可能です)。

その際、「バッテリーがなくなりました。充電してください」のアナウンスが常に流れます。

使用中の場合は下降ボタンを押して、すぐに介護を受ける方を安全な場所に降ろし、充電を行ってください。

●定期的に充電を行ってください。

バッテリーの早期劣化を防ぐため、使用回数が少ない場合でも、1 日 1 回は充電を行ってください。

長期使用しない場合でも、3ヶ月に 1 回は充電を行ってください。

●充電は、介護する方、介護を受ける方の邪魔にならない場所に昇降ユニットを移動して行ってください。

AC アダプターのプラグを接続したまま、昇降ユニットを移動させないでください。

●プラグキャップは紛失しないようにケーブルにつけて使用してください。またプラグキャップを強く引っ張ると破損する恐れがあります。

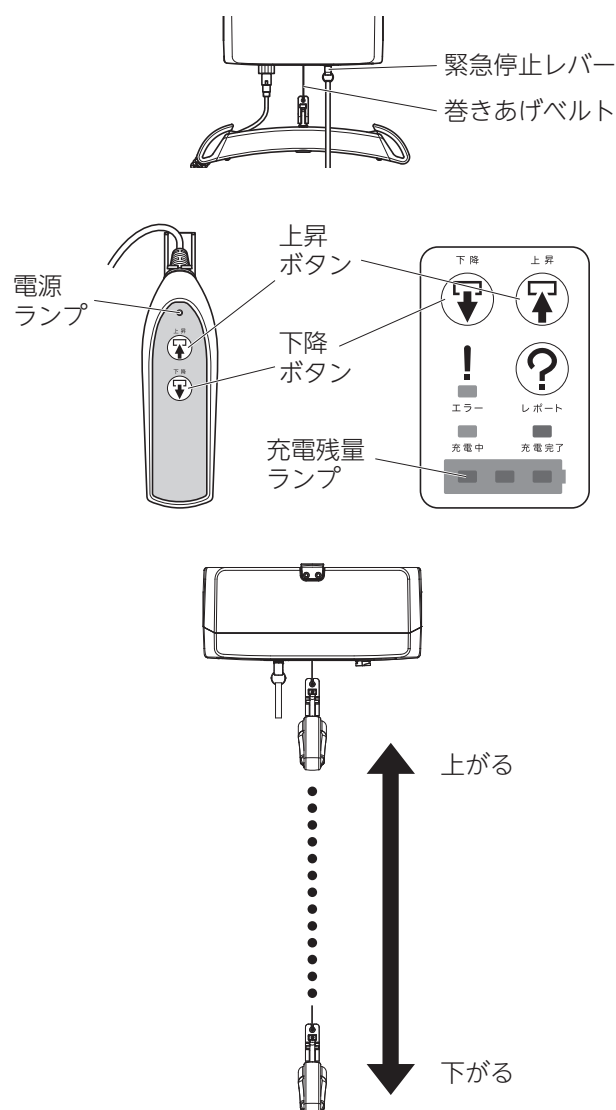


●浴室など、AC アダプターや電源プラグに水がかかる場所で充電しないでください。感電や火災のおそれもあります。

●AC アダプターの電源プラグは直接コンセントからとり、タコ足配線は行わないでください。コンセントや延長コードの容量を超える電気製品を同時に接続して使用すると、電源コードや電源プラグが発熱して火災のおそれがあります。

●充電しない時は、必ず充電用プラグにプラグキャップを取付けてください。プラグキャップが付いていない状態で水などがかかると、感電や火災のおそれがあります。

6. 昇降ユニットを動かしてみましょう



①昇降ユニットの巻きあげベルトがねじれたり斜めになっていないことを確認してください。

②昇降ユニットもしくは手元スイッチの上昇ボタン / 下降ボタンを押し、ハンガーの高さを調節してください。



●巻きあげベルトが極端にねじれたり斜めになっていたりしていると、「ベルトが斜めになっています」とアナウンスがあります。巻きあげベルトが折れた状態で巻きあげられていないか確認してください。

●ハンガーの高さは無段階で調節することができます。

●手元スイッチや昇降ユニット本体操作ボタンを4分間操作しない状態が続くと、自動的に昇降ユニットの電源が切れ動作しません。手元スイッチや昇降ユニット本体操作ボタンを押すと、昇降ユニットの電源が入り、再び動作するようになります。

●昇降ユニットが動作しないときは、27・28ページの「故障かな?と思ったら」を参照してください。

●ハンガーのみで上げる場合、人を吊りあげる速度よりも上昇速度が上がる場合があります。



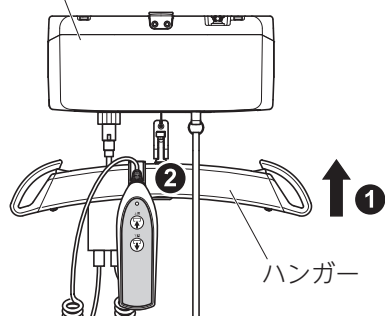
けい こく
警 告

●介護を受ける方を吊りあげて移乗させる際は、ゆっくりと動かしてください。速く動かすと、介護を受ける方に苦痛や不安を与えるばかりではなく、壁や周囲のものにぶつかったり、落下したりしてけがをするおそれがあります。また、昇降ユニットが破損・変形するおそれがあります。

4 使用方法

7. 使用しないとき

昇降ユニット



①ハンガーを一番上まであげてください。(16 ページ参照)

②手元スイッチをハンガーに掛けてください。(14 ページ参照)



●介護リフトを使用しないときは、介護を受ける方が触れないところに移動してください。

●バッテリー上がりを防ぐため、使用しないときは、充電ををおこなうことをおすすめします。



けい こく
警 告

●介護リフトを使用しないときは、ハンガーを一番上まであげてください。

○ハンガーフックが人に当たったり、衣類などに引っ掛かったりして、けがをするおそれがあります。

○ハンガーをさげたままにすると、ハンガーに顔をぶついたり身体の一部（特に首など）に巻きあげベルトや手元スイッチのコードなどが巻きついたりして、けがをするおそれがあります。

○誤って操作ボタンが押され、意図せぬハンガーの動きにより、けがをするおそれがあります。

○ハンガーが身体の一部と接触するなど、思わぬけがをするおそれがあります。

●手元スイッチを使用しないときは、ハンガーなどに引っ掛け、ベッドや車椅子の上、ゆかなどに置かないでください。誤ってボタンが押され、意図せぬ昇降ユニットの動きにより、けがをするおそれがあります。

8. スリングシートについて

■スリングシートには、脚分離型やセパレート型(ベルト型)などがあります。スリングシートの選択にあたっては、介護を受ける方の症状や体型などにあわせて選んでください。

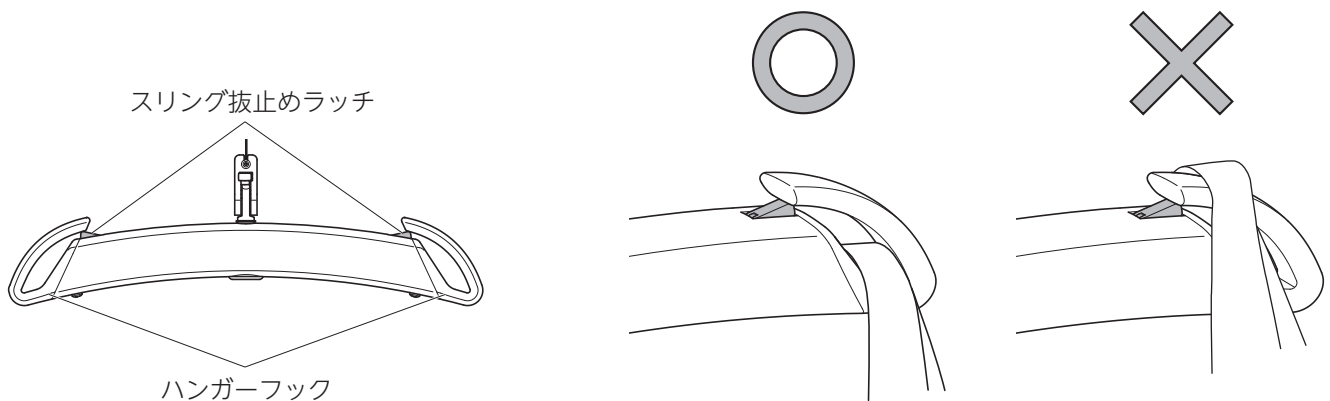


●介護リフトを使用後、スリングシートが当たっていたところの皮膚の変化がないか確認してください。太ももの下などスリングシートが当たっていたところが赤くなったまま戻らないときは、直ちに医師の診察を受けてください。



- 弊社の介護リフトと組み合わせるスリングシートは弊社がお勧めするスリングシートをご使用ください。また、ストラップ(ループ)が布製の製品をご使用ください。ストラップ(ループ)が金属やプラスチックの製品を使用すると、けがをしたり介護リフトの故障につながるおそれがあります。詳しくは販売店にご相談ください。
- スリングシートは、介護を受ける方の身体の状態に適したものをご使用ください。スリングシートの選択に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。介護を受ける方の状態にあったスリングシートを使用しないと、思わぬけがをしたり、皮膚に異常が起こったりするおそれがあります。
- 介護を受ける方の身体の大きさにあった適切なサイズのスリングシートを使用してください。サイズのあわないものを使用すると、正しい吊りあげ姿勢がとれないばかりでなく、落下してけがをするおそれがあります。
- スリングシートは消耗品です。ご使用前には、スリングシートのストラップ(ループ)の摩耗や糸のほつれ、メッシュ部の破れがないことを確認してください。摩耗・損傷した状態で使用するとスリングシートが破損し、介護を受ける方が落下してけがをするおそれがあります。早めに新しいスリングシートと交換してください。
- ご使用前にスリングシートの取扱説明書をよくお読みいただき、スリングシートの正しい使用方法を理解してください。間違った方法で使用しますと、介護を受ける方に苦痛を与えるばかりでなく、介護を受ける方がスリングシートから落下して、けがをするおそれがあります。

■スリングシートの取扱説明書に従い、スリングシートのストラップ(ループ)をハンガーフックに確実にかけてください。



5 使用場所についての注意事項

■介護リフトを使用するにあたって、下記の注意事項を守ってください。



■けがをしたり、故障の原因となりますので、次のような場所での使用は避けてください

- 直射日光のあたる場所
- 冷暖房器による冷気や暖気が直接当たる場所
- 過度の水蒸気や油蒸気のかかりやすい場所
- 高温、多湿、低温、乾燥した場所
- ほこり、煙、塩分、イオウ分、腐食性物質などの多い場所
- 換気の悪い場所
- 振動や衝撃のある場所



■介護リフト周りの家具備品、部屋の構造物の一部などと当たらないよう注意してください

- レール上を移動させる際やハンガーの回転によって、介護リフト周りの家具備品、部屋の構造物の一部などに当たらないように配慮してください。備品や構造物などが破損するおそれがあります。

6組立方法

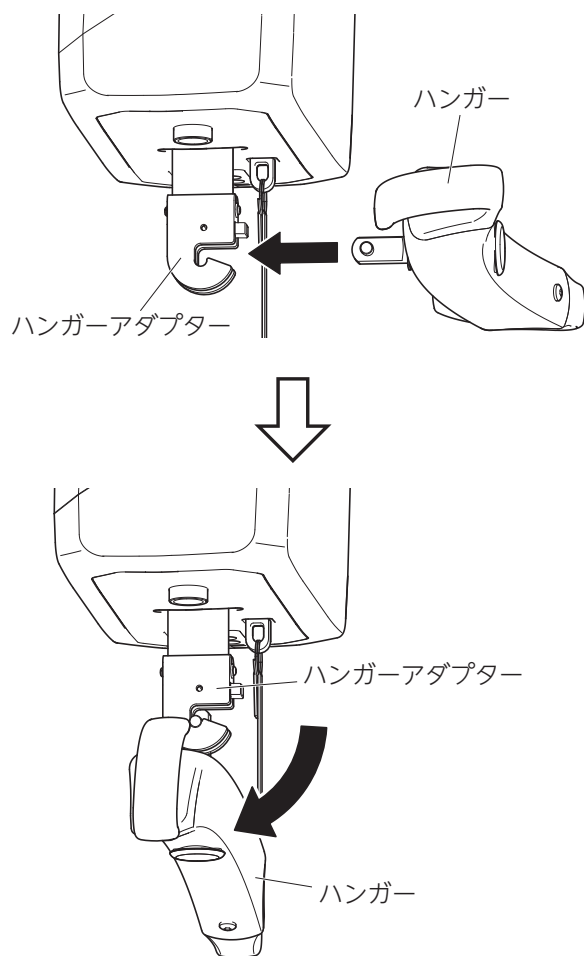
1. ハンガー・手元スイッチの取付け



●介護を受ける方など、人が下にいる状態で、ハンガー・手元スイッチの取付けをしないでください。思わぬけがをするおそれがあります。



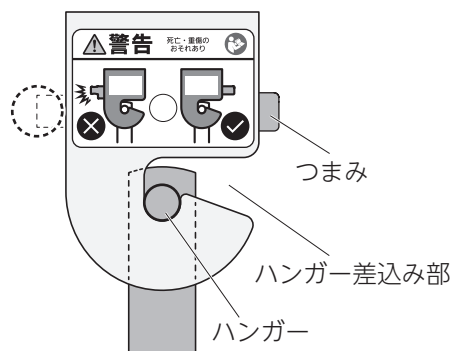
●手元スイッチは、昇降ユニット専用のものを取付けてご使用ください。正しく機能しないおそれがあります。



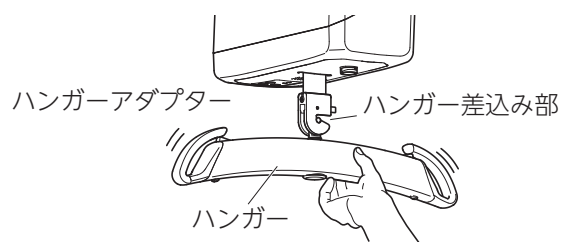
①ハンガーをハンガーアダプターに取付けてください。



つまみがハンガー差込み部の反対側から飛び出していないことを確認してください。



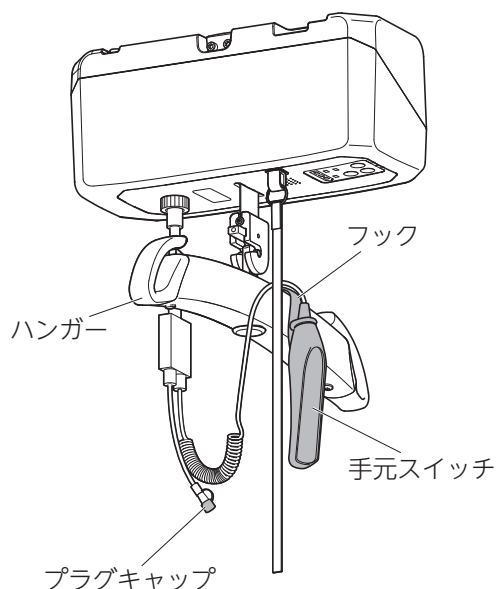
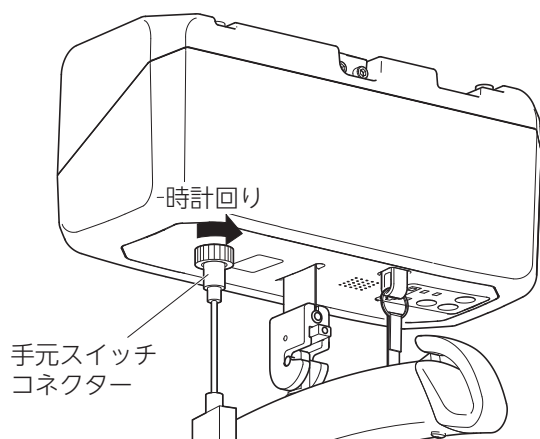
●ハンガーがハンガーアダプターの奥まで差込まれ、ハンガーが外れないことを確認してください。



●ハンガーがハンガーアダプターの奥まで差込まれ、つまみがハンガー差込み部の反対側から飛び出していないことを確認してください。
ハンガーがハンガーアダプターから外れ、介護を受ける方が落下してけがをするおそれがあります。

6組立方法

1. ハンガー・手元スイッチの取付け



- ②手元スイッチコネクタを昇降ユニットの手元スイッチコネクタ差込口に正しい向きで差込んでください。
- ③コネクタキャップを時計回りに回してください。「カチッ」と音がして固定されます。

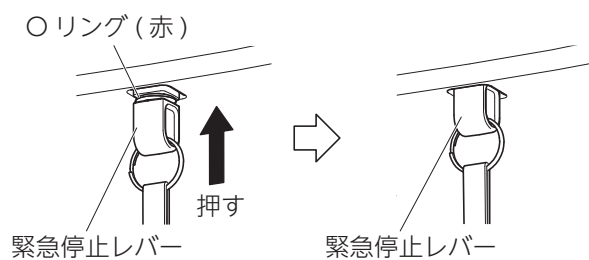


- 手元スイッチコネクタの抜き差しはまっすぐ行ってください。
- 手元スイッチコネクタが不意に外れないよう、差込口がきつくなっていますが、故障ではありません。
- コネクタがしっかりと奥まで差込まれていることを確認してください。

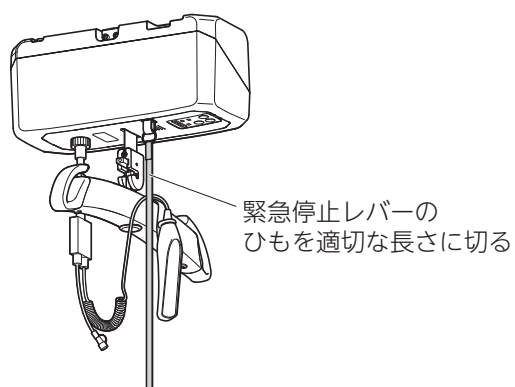


- 手元スイッチのフックをハンガーに引っ掛け、邪魔にならないようにしてください。
- 充電用プラグにプラグキャップがしっかり取り付けられていることを確認してください。

2. 緊急停止レバーの準備



①緊急停止レバーの○リング(赤)が見えている場合、緊急停止レバーを押込んでください。



②緊急停止レバーのひもを適切な長さに切ってください。



●適切な長さに切らないと、余ったひもが介護を受ける方に引っかかり、けがをするおそれがあります。

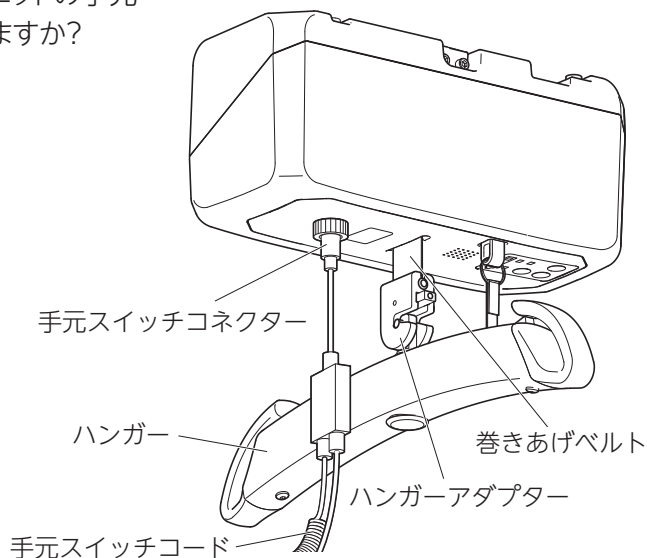
7 ご使用前の日常点検

1 ハンガー・手元スイッチの取付け

- 手元スイッチの手元スイッチコネクターは昇降ユニットの手元スイッチコネクター差込口に確実に差込まれていますか？

☐ はい

☐ いいえ ➡ 21 ページ参照



- 巻き上げベルトに摩耗・損傷・ほつれはありませんか？
- 手元スイッチのコードに摩耗・損傷はありませんか？

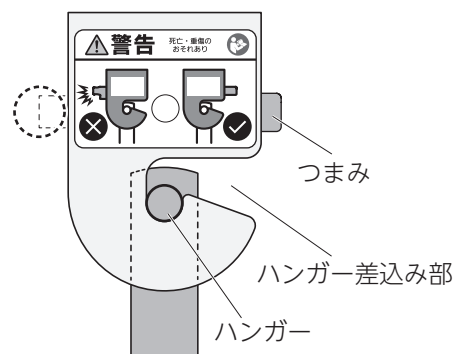
☐ はい

☐ いいえ (摩耗・損傷している) ➡ SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)までお問い合わせください。

- ハンガーは昇降ユニットのハンガーアダプターに確実に取付けられていますか？
- ハンガーアダプターのつまみは、ハンガー差込み部の反対側から飛び出していませんか？
- ハンガーのスリング抜止めラッチがスムーズに動きますか？

☐ はい

☐ いいえ ➡ 20 ページ参照



2 操作時の確認

- ・手元スイッチおよび昇降ユニットの「上昇ボタン・下降ボタン」で昇降ユニットが動かせますか？

☐はい

☐いいえ (昇降ユニットが正しく動作しない・異常音がする) → 27・28 ページ参照

- ・手元スイッチの「上昇ボタン」を押し続けたとき、上限位置で自動で止まりますか？

☐はい

☐いいえ → SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) までお問い合わせください。

- ・昇降ユニットを動かした際、昇降ユニットが周囲の物などに当たりませんか？

☐当たらない

☐当たる → 介護リフトを移動するか、障害物を取り除いてください。

3 介護リフトの傷・変形

- ・昇降ユニットや手元スイッチ、ハンガーに傷や破損がありませんか？
- ・ハンガーフックやスリング抜止めラッチに傷や破損・変形がありませんか？ (18 ページ参照)

☐ない

☐ある → SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) までお問い合わせください。

4 ラベルのはがれ

- ・ラベルがはがれたり、文字が見えなくなっていないですか？

☐いいえ

☐はい (はがれている・文字が見えない) → SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) までお問い合わせください。

5 使用の安全性

介護を受ける方に対して介護リフトを使用する前に、健常者の方に対して介護リフトを使用して、使用の安全性や昇降ユニットの動作などを確認してください。

- ・昇降ユニットを操作した際に、がたつきや異常音はありませんか？

☐いいえ

☐はい (がたつきがある・異常音がする) → 20～22・27・28 ページ参照

- ・人を吊りあげた状態で緊急さげ機能が操作できますか？ (11 ページ参照)

☐はい

☐いいえ → SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) までお問い合わせください。

7 ご使用前の日常点検

6 昇降ユニット

- ・ハンガーがテーブルなどに接地した状態で、下降を停止し、音声アナウンスで「ベルトのたわみを検知しました」と発声しますか？

☐ はい

☐ いいえ ➡ SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)までお問い合わせください。

※調整・点検が必要な場合は、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)までお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは 32 ページの「13 アフターサービスについて」をご覧ください。

8 定期点検と日常のお手入れ

1. 定期点検

- 安全にご使用いただくために、定期的に点検してください。使用の頻度や環境により製品は摩耗・劣化します。詳しくは、設置の際または設置後、販売店にご相談ください。
- 使用中に異常が認められた場合や詳しい点検をご希望される場合は、SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) までお問い合わせください。

2. 日常のお手入れ



- 誤作動によるはさまれを予防するため、AC アダプターのプラグを抜き、緊急停止レバーを引いてからお手入れを行ってください。
- 介護リフトに水をかけて掃除しないでください。ショートして感電するおそれがあります。
- オゾン殺菌器、オートクレーブ滅菌器などには対応できません。
- 漂白剤は使用しないでください。巻き上げベルトが損傷し、落下してけがをするおそれがあります。

【汚れを落とす場合】

- 下記①～③の手順で行ってください。
 - ①水で薄めた中性洗剤にひたした布をよくしぼって拭いてください。
 - ②水でひたした布をよくしぼって、残った洗剤分を拭き取ってください。
 - ③乾いた布で残った水分を拭き取ってください。

【消毒する場合】

- 必ず下記の薬品を指定の濃度で各消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってご使用ください。

～81.4%	消毒用エタノール
～0.2%	塩化ベンザルコニウム (オスバンなど)
～0.2%	塩化ベンゼトニウム (ハイアミンなど)
0.05%	グルコン酸クロルヘキシジン (ヒビテンなど)



- 揮発性のもの (シンナー、ベンジン、ガソリンなど) やクレゾールは使用しないでください。変色・変質させるおそれがあります。
- 消毒剤を使用する場合は、指定以外の薬品を使用しないでください。破損・変質するおそれがあります。
- 中性洗剤を使用した場合は、その後水拭きをしてください。水拭きをしないと樹脂の部分が割れるおそれがあります。

9 故障かな?と思ったら

- 故障でない場合がありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。
- チェック・処置をしても正常に動作しない場合は、ただちに介護リフトの使用を中止し、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き緊急停止レバーを引いた後、SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) まで修理をご依頼ください。
- 以下の症状により、電動で昇降ユニットをさげられない場合は、緊急さげ機能を使用して昇降ユニットをさげてください。(11 ページ参照)
- 地震・火災・水害などで被災した介護リフトは、SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) まで点検・修理をご依頼ください。電装品のショートや漏電による感電・火災、介護リフトの変形による動作の異常によって、けがをされるおそれがあります。

症 状	チェック	処 置	参 照 ページ
●手元スイッチを押しても動かない。	●電源ランプは消灯していますか?	●バッテリーが完全に放電した可能性があります。AC アダプターを接続し、昇降ユニットを充電してください。 ●緊急停止レバーを押し込み、昇降ユニットを使用状態にしてください。	11
	●エラーランプが点灯し、「リモコンが接続されていません」とアナウンスがありますか?	●手元スイッチのコネクターを昇降ユニットの差込口にしっかり差込んでください。 ●しっかり差し込んでも動かない場合は手元スイッチが断線している可能性があります。SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) まで手元スイッチの交換をご依頼ください。	21
	●エラーランプが点灯し、「ベルトのたわみを検知しました」とアナウンスがありますか?	●上昇ボタンを押してたわみを直してください。	12 ・ 13
	●エラーランプが点灯し、「バッテリーが無くなりました。充電してください」とアナウンスがありますか?	●AC アダプターを接続し、昇降ユニットを充電してください。	15
●緊急停止レバーを引き続けても下がらない。	●室内の温度が低くありませんか? (10℃未満)	●室内の温度をあげてからご使用ください。	10
●吊りあげている途中でエラーランプが点灯し止まる。	●「荷重が大きいため、動作を停止しました」とアナウンスがありますか?	●最大利用者体重を超える方を吊りあげないでください。 ※ご使用の環境や介護を受ける方が激しく動いている場合は、200kg 以下の方でも 200kg 超と感知して止まることがあります。	4
	●「荷重が大きいため、動作を停止しました」とアナウンスがありますか? ●室内の温度が低くありませんか? (10℃未満)	●室内の温度をあげてからご使用ください。	10
	●「モーターの温度が上がっています。しばらくお待ちください」とアナウンスがありますか? ●2分以上連続で昇降を行っていませんか?	●介護を受ける方を降ろし、18 分程動作を停止してください。	10
	●「ベルトを交換してください」とアナウンスがありますか?	●下降ボタンで介護を受ける方を降ろしてください。 ●下降ボタンを押してもさげられない場合は、緊急停止レバーを引き続け介護を受ける方を降ろし、SOEL 専用ダイヤル (32 ページ参照) まで巻きあげベルト交換をご依頼ください。	11

症 状	チェック	処 置	参 照 ページ
●昇降ユニットや手元スイッチのボタンをしてもエラーランプが点灯し、動かない。	●「エラーが発生しました。エラーコードは〇〇〇〇(4桁数字)です」とアナウンスがありますか？	●緊急停止レバーを引き続け介護を受ける方を降ろし、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)までご連絡ください。	11
	●「故障を検知しました。エラーコードは〇〇〇〇(4桁数字)です」とアナウンスがありますか？	●緊急停止レバーを引き続け介護を受ける方を降ろし、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)までご連絡ください。	11
●エラーランプが点灯する。	●「ベルトを交換してください」とアナウンスがありますか？	●巻きあげベルトの交換時期が近づいていますので、SOEL 専用ダイヤル(32 ページ参照)まで巻きあげベルト交換をご依頼ください。	—
	●「ベルトが斜めになっています」とアナウンスがありますか？	●下降ボタンを押して巻きあげベルトを引き出し、巻きあげベルトのねじれや偏りを直してください。	16

- 修理のご依頼やお問い合わせの際は、製品識別表示ラベル(2 ページ参照)に表示された番号もあわせてご連絡ください。

10 長期保管について

■長期にわたり介護リフトをご使用にならないときは下記の点にご注意ください

- 高温・多湿・低温・乾燥・ほこりの多い場所を避けてください。
温度 -10～50℃、湿度 30～85%RH の環境で保管してください。
- バッテリー劣化を防ぐため、3ヶ月に 1 回の充電をしてください。
- 取扱説明書と組立付属部品を紛失しないよう、大切に保管してください。
- ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、緊急停止レバーを引いてください。
- 昇降ユニットを置く場合は横向きにして置き、緊急停止レバーに負荷がかからないようにしてください。
- 29～30 ページ「11 取外し方法」に従って分解・保管してください。
※使用を再開する場合は、20～22 ページの「6 組立方法」に従って正しく組立てた後、23～25 ページ「7 ご使用前の日常点検」に従い、点検を行ってください。

11 取外し方法



- 昇降ユニットの取外しは行わないでください。
- 取外しの際は、部品の取扱いに注意してください。落下した場合、けがをするおそれがあります。

1. 取外し作業の前に

①介護リフトの緊急停止レバーを引いて、電源 OFF 状態にしてください。

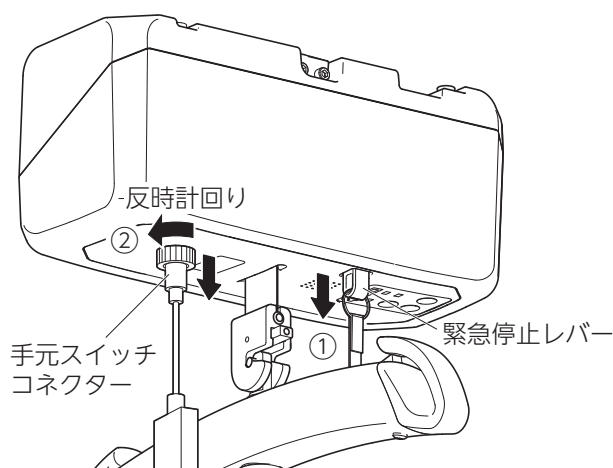


- 介護リフトの緊急停止レバーを引き、電源が切れた状態で取外しを行ってください。作業中に介護リフトのスイッチが不意に押されると、ハンガーが動作してけがをするおそれがあります。

2. ハンガー・手元スイッチの取外し

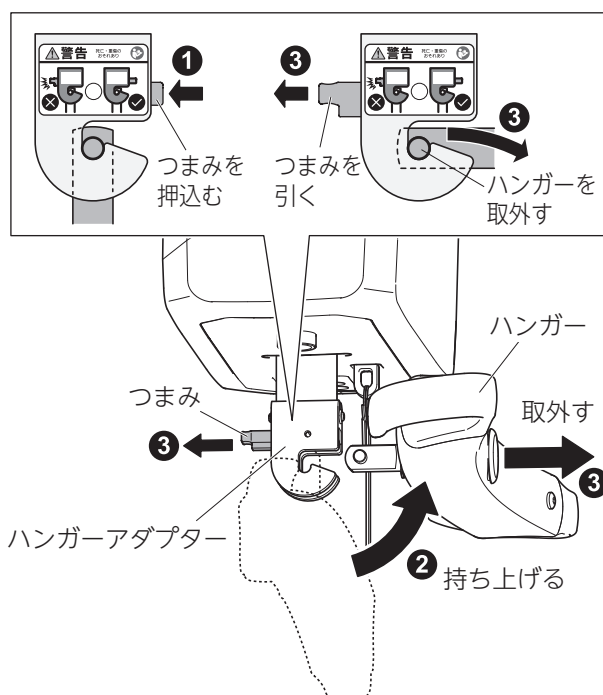


●介護を受ける方など、人が下にいる状態で、ハンガー・手元スイッチの取外しをしないでください。誤って落とすと、思わぬけがをするおそれがあります。



①緊急停止レバーを引いてください。

②手元スイッチの手元スイッチコネクタをを反時計回りに回して、昇降ユニットの手元スイッチコネクタ差込口から取外してください。



③下記の手順に従って、ハンガーをハンガーアダプターから取外してください。

①ハンガーアダプターのつまみを押込んでください。

②ハンガーを持ち上げてください。

③反対側から出てきたつまみを引きながら、ハンガーを取外してください。

12仕様

品名		SOEL CX
品番		CX-AA-101
本体サイズ		W370 × D160 × H160mm
本体重量		9kg
最大利用者体重		200kg
昇降範囲		2200mm ^{*1)}
昇降速度	上昇：40mm/ 秒(負荷 100kg 以下)	
	下降：40mm/ 秒	
騒音レベル		最大 55dB(A)
充電方法		手元スイッチケーブル充電 エンドポイント充電(別途オプション)
充電時間		フル充電 4 時間
バッテリー		ニッケル水素 24V / 3.0Ah
充電器(AC アダプター)		AC100V・50/60Hz
最大連続使用時間		2分(休止時間18分 ^{*2)})
動作保証条件	温度	10～40℃
	湿度	30～75% RH
材質	本体	ABS
	手元スイッチ	ケース：ABS / フック：PA6
	ハンガー	バー：アルミ / フック：PA66
電撃に対する保護の形式		クラスⅡ機器
水の有害な侵入に対する保護の程度		本体：IPX4 / 手元スイッチ：IPX6
耐用期間		8年[自己認証(当社データ)による] ※ただし消耗部品は除く

*1) 巻きあげベルトの巻き込み状態によって誤差が生じます。

*2) 昇降ユニットを最大連続使用時間(2分)動作させた場合、昇降ユニットを過熱から保護するための時間。

13 アフターサービス

1. 保証書

保証書は、必ず「販売店・お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

販売店名・お買い上げ日の記入が無い場合は、品番・販売店・お買い上げ日が確認できるように、製品をお買い上げの領収書などを保証書と一緒に保管してください。

2. 修理を依頼されるとき

修理のご依頼は、SOEL 専用ダイヤル(下記参照)までご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

- 品名、品番、製品識別表示ラベル(2 ページ参照)の番号
- お買い上げ日
- 破損または異常の内容(できるだけ詳しく)
- お名前、ご住所および電話番号

■消耗部品について

- 手元スイッチ・巻きあげベルト・バッテリーは消耗部品です。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間が過ぎているとき

修理により使用できる製品については、ご要望により有償で修理いたします。

3. 部品の最低保有年数は

弊社ではこの介護リフトの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間を製造打ち切り後 8 年としております。

4. 本製品が不要になった場合

- 本製品の廃棄をご希望の場合は SOEL 専用ダイヤル(下記参照)までお問い合わせください。
- お客様による廃棄はご遠慮ください。

5. アフターサービスについてご不明な場合

SOEL 専用ダイヤルまでお問い合わせください。

SOEL 専用ダイヤル ☎0120-861-863

受付時間: 平日 9:00 ~ 17:00 / 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00 (年始 1 月 1 日 ~ 3 日は休業いたします)

